

Main Text (The essay must be 1 page in English or Japanese)

Essay Title: First Step

電子情報通信学会ソサイエティ大会 2013。
つい先日福岡で行われたこの大会は、私にとって初めての学会発表の場だった。
私は今年4月、研究者として遅ればせながら一歩踏み出した。
研究、子育てにおわれる毎日の中で、つい最近まで私には無縁のものだった。
そして、「男性はいいな。いつだって自由がある。」と羨ましく思っていた。
母になるということは、ある期間子供に寄り添うことが必要。
もちろん子供との時間は幸せな時間だ。
でも何かが足りない。
「のめり込むように、何か夢中でやってみたい。」
「冒険がしたい。」
「もっと沢山やりたいことがあるのに。」
そんな考えがいつも頭の中にあった。
きっと、焦っていたのだと思う。
ふと立ち止まり、考えてみた。
「何が挑戦か？」
「何が冒険なのか？」
「この場所で、私のいるべき場所で、何ができるか？」
子供が成人するまで20年、初め母親は子供を抱いて歩き、次に手を引いて歩く。
そして母親は寄り添って傍らを歩き、ある時子供の背中を押して先に行かせ、後ろから見守る。
それなら、初めの10年は後半に備え畑を耕し、種を蒔いてみよう。
仕事、趣味、それぞれに目標を持ち、勉強する10年。
今、少し蕾が開きかけている。
育ててきたものが、形になり始めている。
冒険の世界は、手の届かない遠くにあるわけではなく、すぐ側にあった。
机の上のノートの中、そこに広がっている世界が私を待っていてくれた。
夢を叶えるために重要なのは、時間を上手くコントロールすること。
子供は成長していく。今はできなくても、5年後の状況はきっと変わっているはず。
私は今、ノートの中の冒険の世界を広げようとしている。
この春始めた研究は、「母親の音声画像が子供の安心感に与える影響と評価」というもの。
今だからこそできる仕事だと思う。
今回の大会発表前、発表内容に興味を持ってもらえるか不安でいっぱいだった。
発表後、沢山のご質問を頂けて本当に嬉しかった。
自分の心に正直に、一歩踏み出してみて良かった。
初めの一歩は小さな一歩だけれど、この一歩がなければ進めない。
背中を押してくださった先生や研究を支えてくださる方々には感謝しきれない。
小さな子供の母であることを楽しみ、子供たちに寄り添いながら、この研究の芽を育てていきたい。
そして、未来の働くお母さんとその子供たちの役に立てたら、とても幸せだ。